

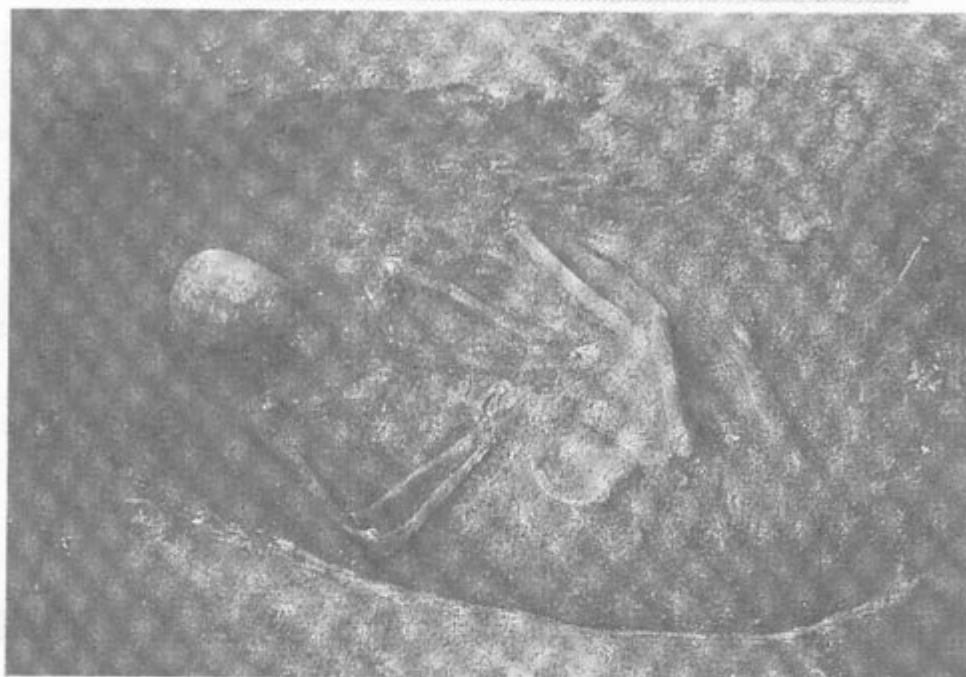


埋文だより

第9号

平成7年9月1日発行

3000年前の人骨が出土!



土壌墓から出土した人骨

くぬぎ ぼる かい つか
柘原貝塚

《所在地：垂水市柘原下》

平成7年6月から垂水市教育委員会が調査を行っていた柘原貝塚内の砂地から、平面形が長径約150cm、短径約90cmの楕円形の穴が2基発見されました。それぞれから人骨が出土したことから、穴は人を埋葬する「土壌墓」と呼ばれる墓であることがわかりました。

2体のうち1体は、頭蓋骨を含めてほぼ完全に残っており、手足を折り曲げた「屈葬」という状態で埋葬されていました。

体の上に置いたと思われる縄文時代晩期初頭の土器の年代から これらの墓が作られたのは、今から約3,000年前であることがわかりました。

縄文時代の人骨が出土した例は、県内ではこれまでに市来町川上貝塚など5か所ありますが、大隅半島では初めての発見です。

(写真提供 垂水市教育委員会)

目次

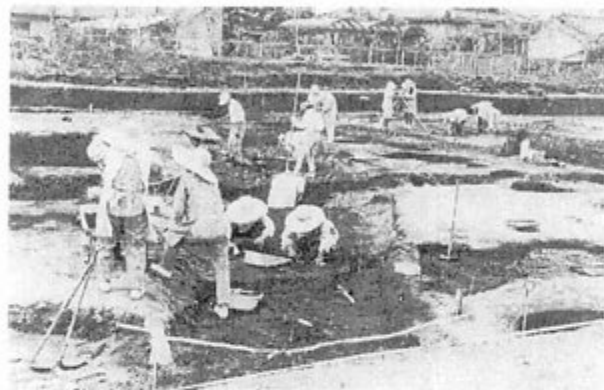
	頁
・柘原貝塚	1
・発掘調査紹介(8)	2~3
・谷山北麓遺跡	
・弥勒院跡	
・フミカキ遺跡	
・中尾遺跡	
・学習展示室から	4
—鎌倉・室町時代—	
・発掘調査の手順(2)	5
—確認調査—	
・「写場から」	5
・発掘調査中の遺跡	6

発掘調査紹介(8)

ミゾで分けられた集落発見！

谷山北麓遺跡たにやまきたもと遺跡いせき 《所在地：鹿児島市上福元町しんごいち かみふくもとちょう》

谷山北麓遺跡は、標高約6mの沖積平野の微高地にあり、江戸時代に谷山麓の中心として「御仮屋」のあった谷山小学校の西隣にあたります。この場所は、昭和35年7月病院増築工事



発掘調査風景

の際、弥生時代の壺形土器や甕形土器等が多量に発見され注目されていました。

今回、マンション建設に伴う発掘調査では、幅3～4m、深さ1.5m、断面V字状の溝状遺構が発見され、溝の中からは弥生時代中期の土器が多く出土しました。また、周辺からは柱穴も多く発見され、この一帯に約2,000年前の集落が存在したことがわかりました。東側は錦江湾に接し、西側は水田地帯と思われる低湿地をひかえていたと考えられます。そのほか出土土器の中には、同時期のものでは県下でも出土例の少ない一ノ宮式土器も発見され、貴重な資料として注目されています。

(鹿児島市教育委員会 出口浩)

700年前の土器がザックザク！

弥勒院跡みろくいんあと遺跡いせき 《所在地：始良郡隼人町堀ノ内あいらぐんはやおらちょうほりのうち》

弥勒院跡は、鹿児島神宮に隣接する宮内小学校の敷地内にあり、沖積低地内にある標高約10mの台地上に立地しています。

校舎増築に先立ち、平成6年度に第1次、平成7年度に第2次調査を実施しました。

弥勒院は、もともと鹿児島神宮と関係が深く、平安時代から続くお寺でしたが、魔仏き釈で壊



まとまって出土した小皿

されてしまいました。江戸時代末期に創られた「三国名勝図会」に見取り図が残っている程度で、詳しいことはわかっていませんでした。

これまで、平安時代から江戸時代までの遺構、遺物が多くみつかっています。遺構では、柱穴や溝・墓・貯蔵穴などが多数見つかり、その中から土師器・須恵器・中国製青磁や国内産の陶磁器などが出土しています。注目されるのは、焼けた土や炭・粘土のかたまりと一緒に鎌倉時代(700年前)の小皿約500点が完全な形でまとまって出てきたことです。このことから、ここで小皿を焼いたことも考えられます。また、江戸時代の鏡や碁石も出土しており、貴重な発見として注目されています。

(隼人町教育委員会 重久淳一)

縄文早期文化と織物史とに一石を投じる

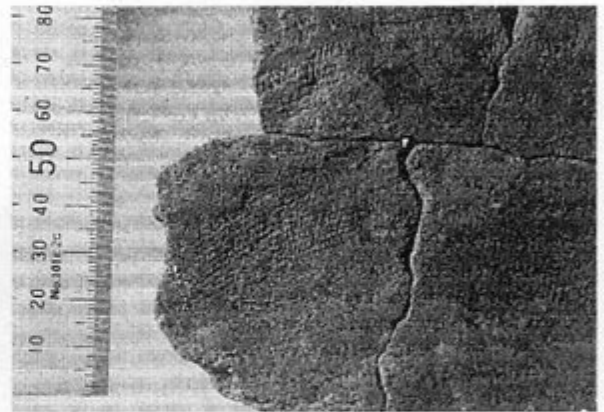
フミカキ遺跡 いせき しよざいち ひおきぐんまつもとちやうふくやました
《所在地：日置郡松元町福山下》

フミカキ遺跡は、南九州西回り自動車道建設に伴い、平成6年11月から平成7年6月まで発掘調査が行われました。この遺跡は、標高170mの台地上にあり、縄文時代早期（約9,000年前）と晩期（約2,800年前）の遺構や遺物に特色があります。

早期の遺構では集石遺構れんげつどこうと連穴土坑れんけつどこうとが検出されました。早期の集石遺構は、全部で11基検出されました。注目されるのは、土層の状況から、出土した土器の中では最も古い土器と考えられる、吉田式土器が使われた時期の集石遺構は、掘り込みがあり2,000個以上の礫が集中していました。これに対して、吉田式土器よりも上の層から検出された押型文土器や石坂式土器が使われた時期の集石遺構は、掘り込みがなく約20個から約50個の礫を集めた比較的小規模なものでした。

また、くんせいを作るのに使ったと考えられる連穴土坑は、吉田式土器が使用された時期の遺構で、1基見つかっています。

一方、縄文時代晩期の遺物では、黒川式土器が出土し、この土器の底に平織ひらおりの布圧痕がついていました。これまで平織の布は、稲作と一緒に弥生時代に日本へ伝わったと考えられていますが、既に弥生時代以前から平織の布が存在していた可能性が出てきました。



1, 500年前の集落発見！

ひらおり 平織の布圧痕のある黒川式土器

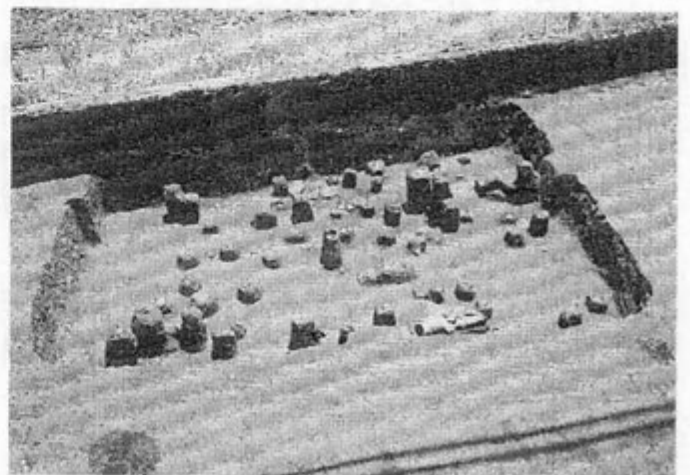
中尾遺跡 なかお いせき しよざいち かもつきぐんあいらちやうかんみやう
《所在地：肝属郡吾平町上名》

中尾遺跡は、県道の改良工事に伴い、平成3年度から調査が行われています。この遺跡は、標高約50mの台地上にあり、縄文時代早期・晩期の遺物や古墳時代の遺構・遺物が発見されています。

今回の調査で注目されるのは、古墳時代の住居跡が新たに4軒検出され、その多くが隅の部分やや丸くなる隅丸方形と呼ばれる形であったことでした。さらにその住居には2本の柱穴と南側には入り口の施設と考えられる浅い掘り込みが発見されました。そのため、住居が建っている方向などから同時期に建てられたのではないかと考えられています。

中尾遺跡の調査では、今までに19軒の住居跡が検出されており、総計23軒の同時代の住

居跡が発見されたこととなります。今後、発掘調査が進むにつれ、さらに住居跡など遺構の数がふえると、当時の人々の生活の様子が、次々とわかってくるのではないかと思います。



検出された住居跡と出土遺物

学習展示室から

～鎌倉・室町時代～ (12世紀末～14世紀末)

平安時代の終わり(12世紀)頃、地方では武士が勢力を振るい始め、貴族や京都・奈良にある寺院・神社の私有地(荘園)が増加しました。

鹿児島県下においても、島津荘と呼ばれる日本一広大な荘園や、公領(国の役所の領地)が多くありました。これらの荘園・公領には武士がいて年貢の徴収等にあたり、古くから勢力を持っていました。13世紀頃になると、東国から新たに移り住んだ島津・渋谷・二階堂・鮫島氏等の東国系の武士が勢力を持つようになり、彼らは地元の武士と紛争を繰り返しながら、やがて従えていくようになります。



鎌倉・室町時代部門展示風景

南北朝時代(14世紀)になると、鹿児島でも武士同士の大規模な争いが各地で繰り返されました。このころ武士は自分の領地を守るために山城を築いて、ここを本拠地としました。以後戦国時代(16世紀末)まで山城は造り続けられました。この山城の跡は現在、県内の各地におよそ800余りが確認され、各地で発掘調査が行われています。

このような状況の中、県内の遺跡から出土する鎌倉・室町時代の遺物には、土師器・陶磁器・古銭等があります。土師器が食器の中心で、

青磁・白磁等も多く使われました。当時の日本では、青磁・白磁を作る技術がなかったことから、中国や朝鮮半島等から輸入されていました。そのほか、長崎県産の滑石製石鍋、備前焼・常滑焼・東播焼等の陶器が多く出土しています。石鍋や陶器等は、県内で作ることはできないもので、いずれも海路や陸路を使って鹿児島まで運び込まれたものでした。

次に、古銭についてですが、古い記録によると、12世紀末に「銭の病」という病気が流行したとあります。病気の実態はわかりませんが、どうやら当時の人々が先を争って銭貨を得ようとしていたようです。当時の都では、中国から輸入した銭(宋銭)が多く流通していました。京都から遠くはなれた鹿児島でも例外ではなく、武士や農民が銭貨を所持していたことが古文書によって確認されます。川内市成岡遺跡等多くの遺跡で宋銭が出土し、古文書の記述を裏付けてくれます。

一方、南西諸島に目を転じると独自の遺物に、カムイヤキがあります。13世紀を中心に南西諸島一帯で使用された物で、この窯の一つが徳之島で発見されています。また長崎県産の滑石製石鍋は琉球諸島まで持ち運ばれていて、さらに中国・朝鮮半島産の青磁・白磁や東南アジア産の陶器等が幅広く流通していました。これらの事実から、当時の南西諸島では、海を介して東アジア・東南アジア世界との人や物のダイナミックな交流が想像されます。

また、山城に対比される城・グスクが琉球列島から奄美諸島にかけて多く分布しています。

これらの遺物や遺構は、文献史料の少ない南西諸島の歴史を解明する重要な資料となっています。

発掘調査の手順(2)

〜^{かくじん}確認調査〜

今回は、地表に出ている遺物の散布などから遺跡の有無を調べる「分布調査」、さらに周辺の地形などから遺跡が存在すると考えられる地域について「周知の遺跡」として登録されることについてお話をしました。

周知の遺跡内に農地整備や道路工事等の開発事業が計画された場合は、遺跡の広がり・深さなどを詳しく調べる調査が必要になります。これを「確認調査」と言います。この確認調査では、事業予定区域内全域にわたって、一定間隔でトレンチとよばれる数メートルの溝を掘り状況把握を行います。

例えば、南種子町横峯C遺跡では、新しく畑を作るために発掘調査を行ったのですが、この結果、約3万年前の調理跡が発見されたため、町が遺跡の保存を決めました。このように、確認

調査の結果に基づき、開発事業を行う人たちと県、市町村の関係機関と協議して、できるだけ遺跡を残すように努めています。この協議については次号でお話します。



遺跡の状況調べるトレンチ

〜「写場」から〜

埋蔵文化財センターの中には、「写場」という写真撮影用のスタジオがあります。

発掘調査が終わると、発掘調査の成果を公開するために報告書を作ります。遺物などの写真を報告書に載せるため、出土した土器や石器の細かい部分の特徴までがよく伝わるように撮影します。

それではどのような点に注意しながら撮影すると良いのでしょうか。

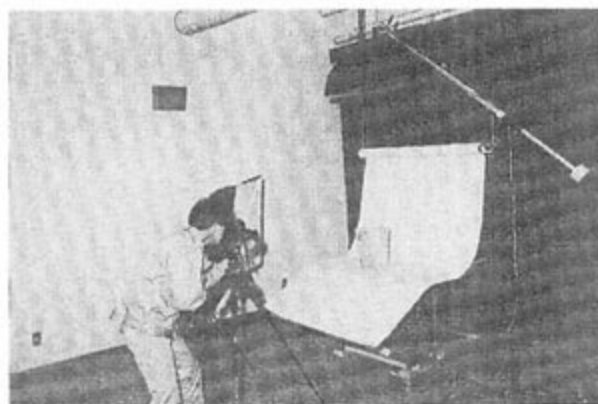
例えば、土器のザラザラとした感じや文様が、鮮明にしかも立体感が出るように影を作って撮影します。黒曜石などの石器は、ツルツルやピカピカとした感じが出るようにレフ板という反射板の反射光を利用して撮影したりします。

このように遺物の細かい部分の特徴を撮影するため、精密な大型のカメラやストロボという大型照明用ライト等が必要になります。

そのほか、さびてボロボロになった青銅や鉄などの金属製品の元の形やそれに何か刻まれているかどうかをエックス線を利用して撮るエッ

クス線撮影装置もあります。一方、墨で書かれた文字や文様は、時間がたつにつれて薄くなりついには消えてしまいます。そこで、見た目にはかすれてわからないものを明瞭に撮る赤外線撮影も行います。(エックス線や赤外線は、まるで魔法の光線みたいですね。)

このように埋蔵文化財センターの写場は、形状や文様などを正確に撮影したり、科学的な方法で昔のことを調べたりするために使われています。



大型ライトを使った精密な撮影

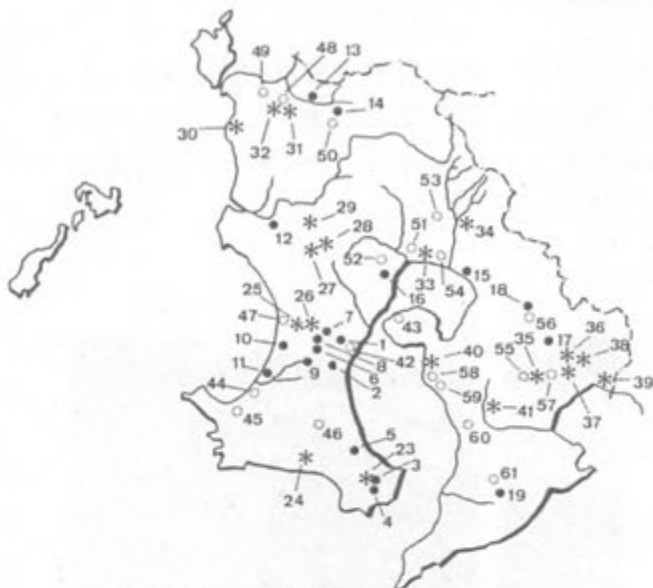
～あなたも、遺跡をのぞいてみませんか？～

9月から調査予定の遺跡（*印）

遺跡名	調査	所在地	時代
23 向苦上	市	指宿市向苦上	縄～歴
24 堀川	町	望奴町御領	古・歴
25 花段	町	伊集院町徳重	
26 大廻原	町	松元町大廻原	
27 鹿村ヶ迫	町	入来町福之名	旧・縄
28 中須後平	町	〃	歴
29 阿久根町	町	入来町副田	歴
30 鳥越古墳	市	阿久根市	古
31 尾崎B	市	出水市文化町	縄～歴
32 正八幡他	市	〃	歴
33 楠原A	町	加治木町日木山	縄・古・歴
34 井出ノ平	町	牧園町井出ノ平	
35 鳥居ヶ段	町	輝北町上平房	
36 宇都A	町	松山町新橋	縄
37 牧ノ段	町	〃	縄
38 堀ノ内	町	松山町泰野	縄
39 重畳古墳	町	志布志町夏井	古
40 西ヶ迫	市	垂水市新生	
41 木屋堀	町	鹿屋市祓川	古

7～8月調査終了の遺跡（○印）

遺跡名	調査	所在地	遺跡名	調査	所在地
42 北麓	市	鹿児島市	55 高居ヶ段	町	輝北町
43 下梶山	町	桜島町	56 塚ヶ段	町	末吉町
44 ヘノ原	市	加世田市	57 丸岡	町	有明町
45 原タクラ	県	大浦町	58 修原貝塚	市	垂水市
46 松山製鉄	町	知覧町	59 宮の前	市	〃
47 六ツ坪	町	日吉町	60 谷平	市	鹿屋市
48 尾崎B	市	出水市	61 中尾	県	吾平町
49 下移迫	町	高尾野町	62 寺ノ門	市	西之表市
50 東山	市	大口市	63 兼久塔原	町	天城町
51 御里原跡	町	加治木町	64 ケツリ	町	伊仙町
52 平松城	町	始良町	65 池原B	町	知名町
53 南十三塚	町	溝辺町	66 浜須B	町	〃
54 勢助院跡	町	隼人町			



*各遺跡については、〈調査〉の欄に「県」とある遺跡の場合は当センターへ、「市・町・村」とある遺跡の場合はその市町村へお問い合わせください。

4月以降調査継続中の遺跡（●印）

遺跡名	調査	所在地	時代
1 山ノ中	県	鹿児島市西別府町	縄
2 東迫	市	鹿児島市下福元町	縄～古
3 橋牟礼川	市	指宿市十二町	縄～歴
4 中小路	市	指宿市十二町	歴
5 帖地	町	喜入町生見	旧・縄
6 前原	県	松元町福山	縄
7 前山	県	松元町石谷	縄・古
8 仁田尾	県	松元町石谷	縄・旧
9 西畑	町	松元町直木	
10 赤井田	町	吹上町赤井田	
11 白糸原	県	金峰町宮崎	縄・古
12 永利城	市	川内市永利	歴
13 狸山 他	市	出水市上大川内	旧
14 米置	市	大口市曾木	縄
15 上野原	県	国分市上之段	縄・弥・古
16 中原	県	始良町隘元	縄・歴
17 鳴神	町	大隅町岩川	縄
18 上ノ原	町	末吉町諏訪方	縄～歴
19 道脇	町	吾平町下名	縄・古・近
20 摺久保他	町	南種子町長谷	
21 三角山	県	中種子町砂中	縄
22 宇宿貝塚	町	笠利町宇宿	

編集後記

今夏も県内で約70か所の発掘調査が、残暑の中行われました。全国的に関心が高まりつつある埋蔵文化財ですが、本県の発掘調査でも延べ数千人にもほのぼの作業員のみなさんの汗と感動の結晶として掘り出されています。さらに、各地の小・中学校で行われている発掘体験学習では、土器や石器を掘り出した時の子供たちの驚きと喜びと楽しさに満ちた瞳に出会いました。様々な感動につつまれる発掘調査現場、暑さを忘れるひとときがあります。

埋文だより 第9号

発行日：平成7年9月1日

編集・発行：

鹿児島県立埋蔵文化財センター

〒899-56

鹿児島県始良郡始良町平松6252

TEL 0995-65-8787

FAX 0995-65-8117